

町田市議会議員 無所属会派

議会レポート 2026.6月号

はせがわ

圭亮

長谷川
けいすけ
NEWS Vol.10

お手にとっていただきありがとうございます。

5月には文教社会常任委員会の行政視察として、浜松市、東大阪市、三原市に訪れ、多文化共生や子どもの居場所づくりといった、多くの学びと市政に活かすヒントをいただきました(詳細は裏面)。また、町田市の待機児童への懸念問題も引き続き調査を進め取り組んでまいります。



待機児童90人、前年比50人増

町田市が公表した「2026年4月認可保育所等入所待機児童数(確定値)について」によると、2026年4月1日時点の待機児童数は90人となり、前年の40人から50人増加しました。新規入所申込者数も2,849人で、前年より302人増加しています。待機児童は0~2歳児に集中し、中でも1歳児は62人です。

	2022年4月	2023年4月	2024年4月	2025年4月	2026年4月
待機児童数	75人	30人	28人	40人	90人
対前年度増減	▲1人	▲45人	▲2人	12人	50人

出所:https://kosodate-machida.tokyo.jp/material/files/group/7/202604taikizidou_kakutei.pdf

0-4歳の転入超過、全国1位の町田市。なのに…

町田市の0-14歳ならびに0-4歳の転入超過数が政令指定都市を含めて全国1位となりました。2025年の0-4歳の転入超過数は町田市では741人とされています(総務省が4月に公表した「住民基本台帳人口移動報告」より)。子育て世帯に選ばれるまちになっていることは喜ばしい一方で、これだけの待機児童が出てしまっただけでは、子育て環境の充実が十分とは言えません。

ここ数週間、市民の皆さまから「保育園に入れない」という怒りや不安の声を非常に多くいただいており、市の担当課にも訴えております。将来的な子どもの数の減少を見据えることも重要ですが、今困っている家庭にどう向き合うのかが問われています。

6月は議会月です。引き続き調査を進め、担当者とも意見交換を続け、待機児童の増加要因や地域ごとの偏り、またいわゆる「隠れ待機児童」の実態を確認していきます。

はせがわ圭亮(けいすけ) プロフィール

1997(平成9)年2月28日生まれ
真光寺3丁目在住
けいしょう幼稚園・鶴川第四小学校 出身
日本大学文理学部社会学科 卒業
日本大学大学院文学研究科
社会学専攻社会学コース 中途退学
衆議院議員秘書・参議院議員公設秘書・
私立学校職員を経て、
2026年2月町田市議会議員選挙
2400票のご支持を賜り、初当選(今期最年少)
社会調査士・防災士 上級救命技能認定
真光寺3丁目町内会 副会長
中学軟式野球チーム
「多摩スーパースターズ」球団代表
一般社団法人町田青年会議所
町田市倫理法人会
町田交通安全協会鶴川第1支部
町田市消防団第三分団第六部 班長
町田市赤十字奉仕団 NPO法人町田演劇鑑賞会
日本大学町田桜門会 他地域諸団体に所属
趣味:街歩き・サッカー観戦(FC町田ゼルビアファン)・映画鑑賞・乗り物乗車(電車、バス、飛行機)

29才





視察のご報告

このたび、文教社会常任委員会の行政視察として、浜松市、東大阪市、三原市に行ってまいりました。各先進的な取組より、多くの学びとこれからの町田市に活かせるヒントを得てまいりましたので、ご報告いたします。



静岡県浜松市

多文化共生・外国人教育支援

視察日：2026年5月12日
“ともに暮らす”まち



視察内容

*2026年4月1日時点

浜松市では在留外国人数が30,985人、総人口の4%に達しています*。多様な文化的背景を持つ市民が安心して暮らせるよう、多言語対応や生活支援、子どもの日本語教育などを視察しました。



視察からの学び

「地域でともに暮らす生活者」として受け入れる姿勢が印象的でした。外国籍児童生徒も1,945人(令和7度)おり、言葉や文化の違いを支える仕組みが、地域全体の安心につながると学びました。



町田市に活かせること(はせがわの考え)

町田市でも外国にルーツのある市民や児童の今後の増加を見据え、行政窓口での分かりやすい案内、多言語での情報提供、日本語学習や学校生活への支援を一体的に進める必要があると感じました。誰一人孤立せず、地域の一員として暮らせるまちづくりに活かしてまいります。



大阪府東大阪市

文化施設整備・多機能施設

視察日：2026年5月13日
“文化を育む拠点”



視察内容

老朽化した市民会館・文化会館を再編し、約183億円をかけて整備された「文化創造館」を視察しました。1500席の大ホールや300席の小ホールを備えた文化拠点です。



視察からの学び

文化施設は、発表や鑑賞をする場所にとどまらず、市民が集い、学び、交流し、新しい活動を生み出す拠点になり得ると学びました。民間の知恵を活かした運営と、多機能な施設づくりが大きな特徴でした。



町田市に活かせること(はせがわの考え)

町田市でも市民ホールの老朽化が課題となる中、施設を建て替えるだけでなく、市民が日常的に使いやすく、子どもから高齢者まで文化に親しめる拠点として整備する視点が必要だと感じました。民間の運営ノウハウを活かしながら、発表・練習・交流・創作を支える開かれた文化施設づくりに活かしてまいります。



広島県三原市

児童館ラフラフ・若者の居場所

視察日：2026年5月14日
“若者が安心できる居場所”



視察内容

「中高生と一緒に」づくり、整備された児童館「ラフラフ」を視察しました。学習、交流、イベント企画などを通じて、子どもや若者が主体的に関われる居場所です。



視察からの学び

旧児童館では中高生利用が1日平均1.3人でしたが、令和7年度には20.2人へ増加しました。中高生を企画や運営に関わる「信頼できる仲間」として関わることが印象的で居場所づくりに大切だと学びました。



町田市に活かせること(はせがわの考え)

町田市でも、中高生が学校や家庭以外で安心して過ごせる「第三の居場所」を増やすことが大切です。児童館や公共施設を小学生中心の場に留めず、中高生も気軽に立ち寄り、学び、交流し、地域活動に参加できる空間として広げることで、若者の孤立防止や地域とのつながりづくりに活かしてまいります。

発行：はせがわ圭亮(けいすけ)

TEL:090-4931-0839

Email:keisuke0228hasegawa@yahoo.co.jp



←←←
はせがわ
圭亮
公式HP



←各種SNSアカウント！友だち追加・フォローー。いいねお待ちしております。